

第5回火山噴火予知連絡会議事録

日時：昭和50年10月20日(月) 13:30~16:30

場所：気象庁

出席者：永田、横山、高木、浅田、下鶴、行武、青木、久保寺、加茂、
太田(九大)、渡辺、吉野・金子(国土庁)、若松(文部省)、
瀬戸、杉浦、諏訪、末広、神沼(幹事)

臨時委員：高橋(国立防災科学技術センター)

(議事に入る前に、会長から国土庁委員に山本重三氏新任の報告、国立防災科学技術センター高橋博氏を本日の連絡会の臨時委員に委嘱する動議があり了承された)

1. 第4回連絡会議事録(案)は異議なく承認された。会長は桜島の地磁気変化について、永田個人の見解は現在も変わりないと付加した。

2. 日本活火山要覧について(気象庁・野島)

表紙に「火山噴火予知連絡会編」と記載することは、事務処理上、問題があるので削除したいと提案し承認された。表紙に併記する「日本活火山要覧」の英文名は次のように採択された。

National Catalogue of the Active Volcanoes in Japan

3. 最近の火山活動について(報告および検討)

3・1 桜島

野島(気象庁):活動報告

加茂委員:49年3月と12月及び50年2月の比較では、隆起がとまり平衡状態にあるが、この傾向が持続的なものか一時的なものかについては、活動判断の決め手であるだけに、今後測量を重ね見定める必要がある。

永田会長:農業関係者に降灰の目安を示す必要がある。

渡辺委員:昭和50年度特別研究促進調整費による(鹿児島県新島の海岸欠落に関する特別研究)について説明。

(統一見解)

桜島の火山活動について

その後の桜島の活動は、前回の統一見解でも述べたとおり、大規模な活動に移行する兆候はないが、依然として一進一退を続けている。

総合的な検討は近く行なう予定の集中観測にまたねばならないが、現在程度の降灰を伴う噴火活動は、なお当分続くものと考えられる。

3・2 阿蘇山

野島(気象庁):活動報告

久保寺委員:10月はじめから活動しているが、とくに大きな変化はない。

3・3 硫黄島

高橋臨時委員:最近の活動について

3・4 雲仙岳

太田委員代理：雲仙岳における新噴気の発生について

3・5 トカラ列島群発地震

加茂委員：トカラ群島宝島・小宝島付近の群発地震

野島（気象庁）：小宝島付近の群発地震

3・6 えびの周辺の地震

下鶴委員：霧島周辺の最近の地震活動

加茂委員：加久藤カルデラの地震活動

野島（気象庁）：えびの周辺の地震活動

1968年えびの地震後、地震活動は極めて低かったが、本年9月末より有感を含む地震活動が活発となった。霧島火山観測所によれば、震源域は加久藤カルデラの北東端となり、前回のえびの地震震源域より東にずれている。地震活動は、現在では小康を保っており、また火山活動にも異常はない（下鶴）。

3・7 三宅島

瀬戸委員：三宅島における地殻変動

3・8 浅間山

瀬戸委員：浅間山における地殻変動

野島（気象庁）：地震が増加しているほかは異常ない。

3・9 西之島新島

杉浦委員：火山活動休止中である。

3・10 鳥島南方沖海底噴火

杉浦委員：自衛隊の演習による水煙の疑いがある。

3・11 その他（野島・気象庁）

樽前山：地震がやや増加している

口永良部島：機動観測結果の報告

草津白根山：草津町役場では気象庁機動観測終了後（50年以降）も地震計をひきつき観測を続けている。地震は多少の変動はあるが少ない。

4. 連絡会庶務報告

5. 協議事項

次回連絡会の開催期日

来年3月の適当な日を追ってきめる

6. その他

連絡会報の配布の範囲を広げてもらいたい（横山委員）と提案があり、前向きに検討する（末広委員）ことになった。

（16：30～16：50 気象庁記者室において報道機関に対しレクチャーを行なった）